

繊維産地サミット 宣言

我が国の繊維産業は、国内の特定地域に生産が集中し産地が形成されてきた。域内には多くの事業者が存在し繊維産業のサプライチェーンが構成され、それぞれの産地で活況を呈してきた。しかしながら、近年では国内市場規模の頭打ち、製品輸入の増加、さらに足下では原材料価格・エネルギー価格の高騰から国内市場が一層厳しい状況にあることに加え、事業所数・就業者数の減少により、産地内サプライチェーンの維持が難しくなっており、産地の形成に影響が及んでいる。他方で、アジア地域における新型コロナウイルス感染症対策にかかる不安定な状況により、現地の製造現場が国内へと回帰する傾向も見受けられる。

一方、海外に目を向けると世界の繊維産業市場は今後も拡大することが見込まれており、また国内においても医療用途などの産業資材分野において繊維の可能性を発揮できる市場が拡大するなど、我が国繊維産業の成長への期待は極めて大きい。

この現状を踏まえ、2020年代半ばに向けた繊維産業並びに繊維産地の展望として、国と繊維産地を有する地方公共団体は、下記について共に連携し事業者をより一層支援することで、我が国の繊維産業、繊維産地、繊維事業者における成長と分配の好循環を創出し、新たな価値創造を次世代へつなげていく。

記

1. 繊維産地並びに繊維事業者が好循環を創出するためには、需要獲得のための海外市場への販路開拓が必要不可欠であり、輸出額の倍増に向けた新たな製品開発への取組が重要である。また、成長が期待できる医療分野などの産業資材分野への進出や新たな顧客獲得となる産業観光への対応など地域に根ざした魅力ある繊維文化を通じた地産地消（産地エシカル）に取り組む国内需要の掘り起こし等も重要である。日本の強みである高品質、高感性、高機能性を生かした製品開発、新分野進出に向けた技術開発、国際認証の取得、リサイクルなど環境配慮や人権等のサステナビリティへの取組を推進する。

2. 繊維産地並びに繊維事業者が好循環を創出するためには、人材確保・育成、事業承継並びに技術の伝承により繊維産地を維持・発展させ、就業人口の増大を図ることが重要である。労働環境・社内環境の改善、デジタル・トランスフォーメーション（DX）、省力化等生産性の向上を推進するとともに、施策の効果的な活用を通じ、オープンファクトリーへの取組など若い世代をはじめとする将来の担い手に対する地域に根ざした魅力ある繊維文化の情報発信（産地エシカル）の取組にも対応する。

3. 繊維産地並びに繊維事業者が好循環を創出するためには、サプライチェーン全体での付加価値の拡大による、繊維業界での所得水準の増大が重要である。従来の商慣行の見直しや適正取引の推進、適切な原材料等の価格転嫁など事業者間の共存共栄を目指したパートナーシップ構築宣言について、繊維事業者 1000 社の宣言に向けた取組の機運を醸成する。

令和5年1月31日

繊維産地サミット

●産地エシカル

産地内での循環（ヒト：従業員／雇用、カネ：経済／消費、モノ：環境／教育／サービスなど）に配慮（特化）した考え方や行動原理